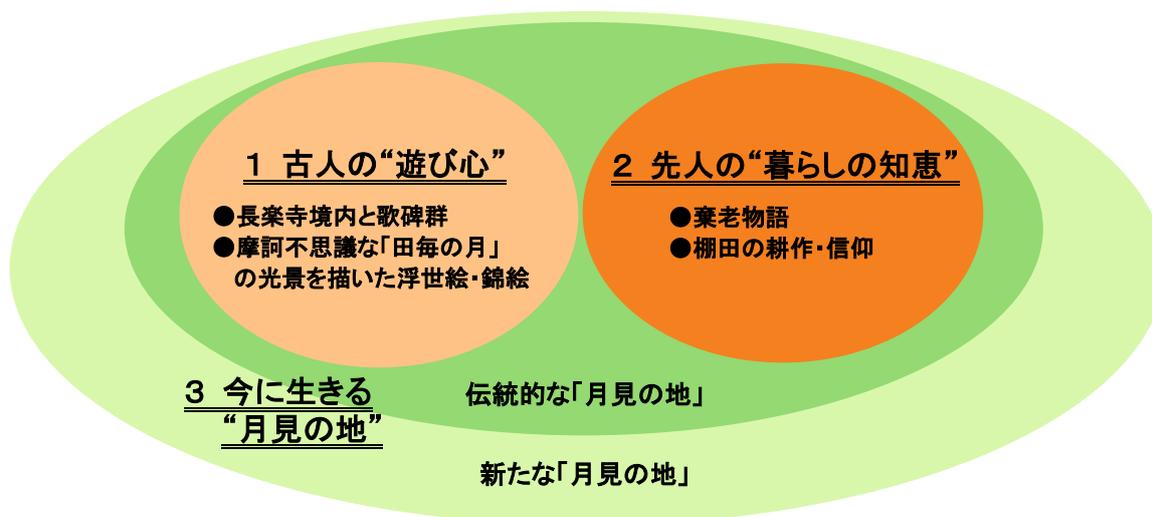


月の都 千曲 — 姨捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色「田毎の月」 —



ストーリーの「3つの柱」		各々の柱を表す事象・性質	構成文化財等(指定/未指定)	
			番号	名称
1	いにしえひと 古人の「遊び心」	月の名所 和歌・俳句	1	長楽寺境内と歌碑群 (国 名勝・文化的景観)
		摩訶不思議な「田毎の月」 浮世絵・錦絵	2	歌川広重「信濃更科田毎月鏡台山」
			3	揚州周延「更科田毎の月」
2	先人の「暮らしの知恵」	棄老物語 父母や古老の知恵に対する 感謝の教え	4	藤原信一「教訓画譜 姨捨山之図」
		姨捨の棚田耕作	5	姨捨の棚田(国 名勝・文化的景観)
			6	大池(国 文化的景観)
			7	更級川・分水工・用水路(国 同上)
		月に関わる信仰	8	武水別神社 高良社本殿
			9	同 神官松田邸
			10	同 神宮寺跡
			11	同 仲秋祭
			12	同 大頭祭(国 記録選択)
			13	大池の百八灯
			14	稻荷山の街なみと祇園祭(国 重伝建)
			15	月待ち行事—二十三夜塔
			16	冠着神社と遥拝所
3	今に生きる「月見の地」	伝統的な月見の地	17	冠着山(姨捨山)
			18	鏡台山
			19	東山道の支道
			20	更級郡衙推定地
			21	北国街道脇往還善光寺道(国 選定)
			(1)	長楽寺境内と歌碑群 (国 名勝・文化的景観)
		新たな月見の地	22	姨捨十三景
			23	姨捨駅 駅舎
			24	冠着山のヒメボタル生息地
			25	笹屋ホテル別荘(国 登録)
			26	長野銘醸酒蔵(国 登録)
			27	坂井銘醸酒蔵(国 登録)
28	千曲川のハヤのつけ場漁			
29	蕎麦・おしぼりうどん・おやき			

ストーリーの構成文化財一覧表(1)

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の 所在地 (※4)
1	ちようらくじ 長楽寺境内と歌碑群	国一名勝・重要 文化的景観	【1 古人の「遊び心」和歌・俳句】 長楽寺境内に建つ「芭蕉翁面影塚」は、明和元年(1769)に松尾芭蕉の門人加舎白雄、地元有志により建立。以後、境内に 45 基の文学碑が建てられ、独特の雰囲気を作り出している。	
2	うたがわひろしげ 歌川広重作 浮世絵 「信濃更科田毎月鏡台山」	未指定 (有形文化財)	【1 古人の「遊び心」浮世絵】 『六十余州名所図会』所収の「信濃更科田毎月鏡台山」の浮世絵。全ての水田に丸く月を描き、「田毎の月」を見事にイメージ化した。まさに浮世絵師広重の技、遊び心である。	
3	ようしゅうしゅうえん 揚州周延作 錦絵 「更科田毎の月」	未指定 (有形文化財)	【1 古人の「遊び心」錦絵】 「更科田毎の月」は、鏡台山に昇る満月を長楽寺境内の月見堂から月見する女性たち、水田の水面に映る「田毎の月」、畔道を歩く芭蕉と門人越人を描く。	
4	ふじわらしんいち 藤原信一作 教訓画譜 「姨捨山之図」	未指定 (有形文化財)	【2 古人の暮らしの知恵 棄老物語】 教訓画譜「姨捨山之図」は、男に背負われた老婆が枝を折り、男が帰る道しるべとしている場面を描き、親孝行を説く。	
5	おぼすて たなだ 姨捨の棚田	国一名勝・重要 文化的景観	【2 古人の暮らしの知恵 姨捨の棚田】 戦国時代には一部に沢水を使った水田が拓かれ、水面に映る月影が「田毎の月」と呼ばれた。斜面全面に水田が拓かれたのは、江戸時代の初めにため池が造られ、農業用水が確保されてからのことである。	
6	おおいけ 大池	国一重要文化的 景観	【2 古人の暮らしの知恵 姨捨の棚田】 江戸時代初めに湧水を貯める大池が造られ、斜面全体が水田化された。大池から更級川で棚田の上部まで水を流し、水路網で配水し耕作され、現在に引き継がれている。	
7	さらしながわ ぶんすいこう ようすいり 更級川・分水工・用水路	国一重要文化的 景観	【2 古人の暮らしの知恵 姨捨の棚田】 更級川は、弁財天の湧水を水源として流れ下る自然河川。ため池が造られてからは、貯えた水(樋水という)を棚田近くまで流し、大口分水工などから用水路に引き込み利用している。	
8	たけみずわけじんじゃ 武水別神社 こうらしゃほんでん 高良社本殿	県一県有形文化 財(建造物)	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 武水別神社境内には、室町時代の摂社高良社本殿が残る。当時の連歌師飯尾宗祇は、八幡宮の連歌会で、「…姨捨山に秋の月」と詠んでいる。その頃神社では、連歌会が行われていたことがわかる。また、永禄 7 年(1564)上杉謙信は、この境内から冠着山に照る月を見て、川中島合戦の戦勝祈願を行っている。	

ストーリーの構成文化財一覧表(2)

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の 所在地 (※4)
9	たけみずわけじんじや 武水別神社 かんぬしまつだけやかたあと 神主松田家館跡	県一史跡	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 戦国時代に上杉景勝によって稲荷山城が築かれ、景勝から松田氏に在城と八幡神領の管理が命じられた。その頃築かれた居館が松田家館である。江戸時代になると、松田氏は神職となり、現在に引き継がれている。	
10	たけみずわけじんじや 武水別神社 じんぐうじあと 神宮寺跡	未指定 (史跡)	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 江戸時代までは神仏習合で、神宮寺が権勢を持ち、神職の松田家とともに武水別神社の運営を執行していた。明治時代の廃仏毀釈により、神宮寺は消滅したが、その頃の建物が今に残る。長楽寺も、神宮寺の末寺である。	
11	たけみずわけじんじや ちゅうしゅうさい 武水別神社の仲秋祭	未指定 (無形民俗文化財)	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 毎年9月14日の中秋の満月の頃に、武水別神社の仲秋祭が行われる。満月の下で、近在の獅子舞神楽 6～7 頭、神社に奉納される。境内では仕掛け花火が披露され、人びとで賑わう。	
12	たけみずわけじんじや とうにん 武水別神社の頭人行事 (大頭祭)	国一記録選択	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 毎年12月10日から15日に新穀を神前に供える祭で、400 年以上毎年欠かすことなく行われてきた。武水別神社の氏子は、旧 3 か村 21 集落、現八幡・更級・五加地区の人びとで構成されている。その中には姨捨の棚田地域の耕作者も含まれており、水利組織と祭祀圏が重層的に結び付き、地域の絆を育んでいる。	
13	おおいけ ひやくはつと 大池の百人灯	市一無形民俗文化財	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 棚田の上部の集落には、毎年8月16日に108 つのワラ束の送り火を焚いて、松代藩真田信之の妻小松姫を供養する行事が江戸時代から続いている。大池や棚田開発など松代藩との関係の中で行われ、今も引き継がれている。	
14	いなりやま 稲荷山の街なみと祇園祭	国 重要伝統的 建造物群 市一無形民俗文化財	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 江戸時代、善光寺道の稲荷山宿として栄えた宿場町である。商売繁盛を願い祇園祭が行われたが、弘化 4 年(1847)の善光寺地震で途絶えた。明治に復活し、今に引き継がれている。今ある建物群は、地震後に建てられた防火対策を施した土蔵造りの建物群である。表通りは、両側に町家の主屋が並ぶ。裏通りには蔵が並び、ゆっくりと散策できる。	
15	つきま 月待ち行事—二十三夜塔	未指定 (有形文化財)	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 市内には、50 基もの二十三夜塔が存在し、月待ち行事が盛んであったことがわかる。稲荷山地区には、今でも行事を行っているところがある。	

ストーリーの構成文化財一覧表(3)

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の 所在地 (※4)
16	冠着神社と遥拝所 <small>かむりきじんじや ようはいじよ</small>	未指定 (有形文化財・ 史跡)	【2 古人の暮らしの知恵 月に関わる信仰】 宝暦4年(1754)に山頂に社殿が建てられ、月読尊が祀られた。今でも麓の人びとによって毎年7月下旬に祭事が行われている。明治になって、冠着山が姨捨山だという議論の中で、明治26年(1893)に、麓の羽尾地区に遥拝所が建てられた。明治27年には、商都稲荷山の表通りにも冠着神社遥拝所の石碑が設置された。	
17	冠着山(姨捨山) <small>かむりきやま おぼすてやま</small>	未指定 (史跡)	【3 今に生きる「月見の地」 伝統的な地】 千曲川左岸にある標高1,252mの山。古くは姨捨山と呼ばれ、「更級の姨捨山に照る月・・・」と和歌に詠まれた都人の憧れの月の名所であった。江戸時代に、山頂に冠着神社(月読尊)が祀られ、冠着山と呼ばれるようになった。	
18	鏡台山 <small>きやうだいさん</small>	未指定 (名勝)	【3 今に生きる「月見の地」 伝統的な地】 千曲川右岸にある標高1,269mの山。中秋の満月が山頂付近より昇ることから、山名の由来となった。江戸時代になって、鏡台山から昇る月を松尾芭蕉が俳句に詠み、歌川広重が浮世絵に描いた。	
19	東山道の支道 <small>とうさんどう しどう</small>	未指定 (史跡)	【3 今に生きる「月見の地」 伝統的な地】 古代に設けられた東山道と北陸道を結ぶ支道。冠着山の支尾根を越え、本市を通り、善光寺平を経て北陸道へとつながる。この道を通して、「姨捨山に照る月・・・」が都に伝わり、月の名所として知られるようになった。	
20	八幡遺跡群 (更級郡衙推定地) <small>やわた こおり さらしなぐん がすいていち</small>	未指定 (史跡)	【3 今に生きる「月見の地」 伝統的な地】 大字八幡字郡付近に推定されている古代の更級郡の郡衙跡。付近に武水別神社や社宮司遺跡があり、掘立柱建物跡や六角宝幢などが出土。都との往来があったことがわかる。	
21	北国街道脇往還 善光寺道 <small>ほっこくかいどうわきおうかん ぜんこうじみち</small>	国一選定歴史の 道	【3 今に生きる「月見の地」 伝統的な地】 中山道と北国街道を結ぶ主要な街道で、善光寺参りや伊勢参りの人びとで賑わった。芭蕉も木曾路から善光寺道を通り、姨捨へ月見に来遊した。	
22	姨捨十三景 <small>おぼすてじゅうさんけい</small>	国一名勝	【3 今に生きる「月見の地」 伝統的な地】 江戸時代、長楽寺から望める見所などの十三景が成立。境内の姨石・桂の木・宝ヶ池、雲井橋・姪石・更級川、冠着山・鏡台山・更級の里・千曲川などが数えられる。	

ストーリーの構成文化財一覧表(4)

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の 所在地(※ 4)
23	おぼすてえき えきしや 姨捨駅 駅舎	未指定 (登録有形文化財)	【3 今に生きる「月見の地」 新たな地】 鉄道は明治 33 年(1900)に開通、現駅舎は昭和 9 年(1934)の建築。駅付近の眺望は「日本鉄道三大車窓」の一つ。ホームからは、対岸の鏡台山から昇る月が良く見える。まさに、月の駅である。	
24	かむりきやま 冠着山のヒメボタル生 息地	未指定 (天然記念物)	【3 今に生きる「月見の地」 新たな場所】 陸生のホタルで、冠着山の山頂付近に生息。7月下旬の夜に乱舞する様子は、月読尊の化身とも思えるような情景である。	
25	とぐらかみやまだおんせん 戸倉上山田温泉 さきや 笹屋ホテル別荘(豊年蟲)	国一登録有形 文化財	【3 今に生きる「月見の地」 新たな地】 温泉は明治元年に千曲川の河原で発見され、明治 26 年戸倉温泉、明治 36 年上山田温泉が開湯した。総称して戸倉上山田温泉と呼ぶ。笹屋ホテルには、志賀直哉をはじめ多くの文 人・墨客が滞在した。昭和 7 年、建築家・遠藤 新が設計した近代和風旅館建築の先駆けとな った建物である。今でも宿泊することができる。温泉で旅の疲れを癒し、郷土料理を楽しむことができる。姨捨の夜景ツアーも利用できる。	
26	ながのめいじょうさかぐら 長野銘醸酒蔵	国一登録有形 文化財	【3 今に生きる「月見の地」 新たな地】 善光寺道沿いの中原にある、元禄 2 年(1689)創業の造り酒屋。今も棚田と同水系の湧水を使い酒造りが行われている。	
27	さかゐめいじょうさかぐら 坂井銘醸酒蔵	国一登録有形 文化財	【3 今に生きる「月見の地」 新たな地】 北国街道沿いの下戸倉宿にある造り酒屋で、宝暦 10 年(1760)頃に建てられた茅葺の主屋が残る。芭蕉門下の加舎白雄が長く逗留したことから白雄関係資料や、竹久夢二関係資料が多数所蔵され、酒蔵を改装した資料館で見学することができる。	
28	ちくまがわ 千曲川のハヤのつけ場 りょう 漁	未指定 (無形民俗文化財)	【3 今に生きる「月見の地」 新たな地】 江戸時代から、千曲川中流域での漁法「つけ場」である。獲った「赤魚」(ハヤ)の塩焼き・天ぷらなどを河原の季節小屋で食べるのは、野趣あふれる千曲川の恵みの一つ。	
29	そば 蕎麦・おしぼりうどん・おやき	県一選択無形民 俗文化財	【3 今に生きる「月見の地」 新たな地】 白い「さらしな蕎麦」は、白く清涼さをイメージし、「さらしな」の地名から名付けられたと言われている。市域では蕎麦も食べられるが、二毛作が行われていたので小麦のうどんやおやきの方がよく食べられ、今ではおやき専門店もある。大根のしぼり汁で食べる「おしぼり蕎麦・うどん」は、心地よい辛味がたまらない地域限定の一品。	